

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1. 5年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	読解(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	福 嶋 香 理	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
11月の留学試験、12月の日本語能力試験N1合格を目標にする、キーワード、指示語、主語の省略、接続詞などポイントを押さえながら、選択肢を見て探すのではなく、自分で筆者の意見をまとめられるよう、日本での就職を見据えての必要な力をつける。毎回、小テストと宿題を課す。試験後は生教材(雑誌、新聞など)にも挑戦する。資格試験後は医療関係の記事など将来と関係がある読み物などにも挑戦する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:70% 2. 小テスト:10% 3. 課題提出:10% 4. 授業態度:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「新完全マスター読解N1」(スリーエーネットワーク)、「ドリル&ドリル日本語能力試験読解」(ユニコム) (課題) 「日本留学試験[日本語・読解]ポイントレッスン&問題集」(JMAM)、「日本語総まとめN1読解」(スリーエー)新聞、医療系専門誌等～抜粋、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》						
課題として実践問題を多く解く。間違いが多い問題は授業で再度扱う。						
《履修に当たっての留意点》						
選択肢に頼らず、自分で要約し、意見がまとめられることを後期の最終の目標とする。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(1)日本留学試験対策 表や掲示物、指示語の解き方を身につける。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	着目点を見つける、接続詞と共に文全体の流れを読み取る。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(2)日本留学試験対策 キーワードや筆者の主張をや考えが見つけられる。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	言い換えの言葉や文末表現に注意しながら文を読む。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(3)日本留学試験対策 接続詞で文の流れがわかり、文章を正しく並べられる。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	順接、逆説、並列、添加、言い換え、まとめの言葉を身につける			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(4)日本留学試験対策 模擬試験(学んだストラテジーを使い、問題が解ける)		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	さまざまな問題を解く。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(5)日本語能力試験対策 情報を取ることができる		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	全体をつかみ、情報を探し出す。 広報、お知らせ、説明書など			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(6) 日本語能力試験対策 文の仕組みを理解できる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	対比文、言い換え		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(7) 日本語能力試験対策 文の仕組みを理解できる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	比喩、疑問提示文		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(8) 日本語能力試験対策 文の細かい部分を正確に読み取れる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	指示語を問う、「だれが」「何を」などを問う問題		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(9) 日本語能力試験対策 文の細かい部分を正確に読み取れる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	下線部の意味、理由を問う、例を問う問題		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(10) 生教材、新聞のコラム(500-600字程度)が読めるようになる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	新聞の投稿欄や短いエッセーを読む(1)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(11) 生教材、新聞のコラム(500-600字程度)が読めるようになる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	新聞の投稿欄や短いエッセーを読む(2)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(12) 生教材、新聞のコラム(500-600字程度)が読めるようになる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	新聞の投稿欄や短いエッセーを読む(3)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(13) 多読 さまざまな分野の文章をできるだけ早く読めるようになる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型、語彙、拝啓知識を増やす。 異文化理解について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(14) 多読 さまざまな分野の文章をできるだけ早く読めるようになる。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	文型、語彙、背景知識を増やす。 異文化理解について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(15) 専門の医学雑誌が読める。	使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	医療系雑誌を読む。		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	読解(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	福嶋 香理	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
11月の留学試験、12月の日本語能力試験N1合格を目標にする、キーワード、指示語、主語の省略、接続詞などポイントを押さえながら、選択肢を見て探すのではなく、自分で筆者の意見をまとめられるよう、日本での就職を見据えての必要な力をつける。毎回、小テストと宿題を課す。試験後は生教材(雑誌、新聞など)にも挑戦する。資格試験後は医療関係の記事など将来と関係がある読み物などにも挑戦する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:70% 2. 小テスト:10% 3. 課題提出:10% 4. 授業態度:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「新完全マスター読解N1」(スリーエーネットワーク)、「ドリル&ドリル日本語能力試験読解」(ユニコム)(課題) 「日本留学試験[日本語・読解]ポイントレッスン&問題集」(JMAM)、「日本語総まとめN1読解」(スリーエー)新聞、医療系専門誌等～抜粋、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》						
課題として実践問題を多く解く。間違いが多い問題は授業で再度扱う。						
《履修に当たっての留意点》						
選択肢に頼らず、自分で要約し、意見がまとめられることを後期の最終の目標とする。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(16)専門の医学雑誌が読める。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	医療系雑誌を読む。			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(17)専門の医学雑誌が読める。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	医療系雑誌を読む。			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(18)新聞		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	新聞を読む。			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	上級(19)新聞		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	新聞を読む。			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	理解度を確認する。		使用教材から適宜抜粋	予習、復習
		各コマにおける授業予定	総まとめ			